

「福島復興事業」と  
「福島イノベーションコースト構想」への  
取り組みについて

福島コンピューターシステム株式会社 | 2021年9月24日





代表取締役社長

## 経 歴 書

氏 名 芳賀 洋輔 (はが ようすけ)  
生年月日 昭和27年5月2日 (満69歳)  
最終学歴 明治大学 政経学部 政治学科卒業  
(昭和50年3月)

### 職 歴

昭和50年4月	東邦銀行	入行
平成4年4月	同	人事部 研修課長
平成6年4月	同	富田支店長
平成8年6月	同	東京事務所長
平成10年4月	同	湯本支店長
平成12年4月	同	須賀川支店長
平成15年4月	同	営業企画部長
平成17年4月	同	公務部長
平成19年4月	東邦銀行	退職
平成19年5月	福島コンピューターシステム (株)	入社
平成28年12月	同社	代表取締役社長就任

### 現 職

平成19年5月	(株) 福島情報処理センター	監査役就任
平成21年5月	福島県情報産業協会	監事就任
平成22年5月	郡山高度情報化システム研究会	理事就任

# 本日の内容

- 1、 「福島復興事業」 への取り組み
  - (1) 取り組んだ理由について
  - (2) 福島復興事業の内容について
- 2、 「福島イノベーションコースト構想」 への取り組み
  - (1) 取り組み経緯について
  - (2) 取り組み内容について
- 3、 「今後の展望」
  - (1) 共創について
  - (2) 福島から世界へ

# 「福島復興事業」への取り組み

## (1) 取り組んだ理由について

- ・ 風評被害
- ・ 継続は力なり

## (2) 福島復興事業の内容について

- ・ 再生可能エネルギー
- ・ 医療関連
- ・ ロボット

# 「福島イノベーションコースト構想」への取り組み

## (1) 取り組み経緯について

- ・福島復興再生特別措置法(2012年3月公布)
- ・福島復興再生特別措置法改正(2017年5月)により  
「福島イノベーションコースト構想」推進の法定化

## (2) 取り組み内容について

- ・在宅メディケアシステム開発(2016年度～2018年度)
- ・AI を用いたスマートクリニックシステム(2019年度～2021年度)
  - ・海洋調査を目的とした無人観測船の開発 (2016年度～2018年度)



2019 年度開始

医療関連分野

05

○実施期間  
2019~2021 年度

○実用化開発場所  
田村市、東京都

## コニカミノルタ株式会社、福島コンピューターシステム株式会社

# 「深刻な医師不足」、「疾患の重症化」といった医療課題に AI 技術で挑む

**事業概要**

日本における超高齢化社会では、プライマリケアの重要性が高まる一方で、クリニックの医師の負担が増大しており、特に、with コロナ時代においては益々それが顕著な状況である。そこで、AI を用いたスマートクリニックシステムを開発し、医療効率の向上を通じての医師の負担軽減を実現し、併せて医療の質を高める事による患者の疾患重症化の抑制を図る。

**事業計画**

AI を用いたスマートクリニックシステム

### ▶ 現状・背景

医師不足の進む日本、中でも福島県は震災の影響もあり全都道府県中で対人口当たりの医師数 41 位と特に深刻な状況です。南相馬市での在宅患者へのオンライン診療の取り組み、厚生労働省による医師の働き方改革に関する検討会等が推進される中、当事業においても AI を用いて医師を支援しつつ、こうした課題の解決を図ります。

### ▶ 研究 (実用化) 開発の目標

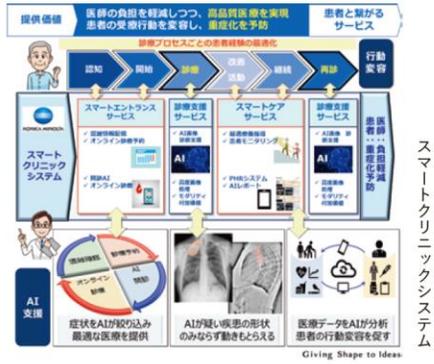
診察、検査、治療といった医師の各診療プロセスに対し、AI を中心としたサービスで支援することにより医師の負担を軽減すると共に、サービスを患者にも届け、治療継続へと行動変容を促し、疾患の重症化を予防、更には健康増進へも繋がる世界を実現します。

### ▶ 研究 (実用化) 開発のポイント・先進性

主に下記サービスから構成される、スマートクリニックシステムを開発します。

- ①個人に最適な医療を選択し、診療がスムーズに開始できる「スマートエントランスサービス (患者負担低減)」
- ②病変の早期発見に寄与し、医師の負担・プレッシャーの軽減につながる「診断支援サービス (医師の負担低減)」
- ③患者の行動変容を促し重症化を予防する「スマートケアサービス (質の高い患者ケア、重症化予防)」

コニカミノルタの優位技術 (画像処理、AI、センシング、セキュアネットワークインフラ基盤等) と、福島コンピューターシステムのアプリ開発ノウハウを掛け合わせ、社会課題と現場のニーズに対応したシステムを開発します。



2016年度開始

06

ロボット分野

国立研究開発法人

## 日本原子力研究開発機構、株式会社ウインディーネットワーク

本プロジェクトでは、海洋のドローンと言われている無人船 (Unmanned surface vehicle: USV) を浜通りの企業を中心として開発することを目的にしました。海洋の仕事は、漁業、島しょ部の調査、物流及び原子力発電所のモニタリングなど様々な想定されますが、いずれも人手と手間がかかっています。そのような仕事を無人で行えるツールとして浜通り印の無人船の市場での広い利活用を目指します。

実施期間：2016年度～2018年度 実用化計画開発実施場所：南相馬市、相馬市、浪江町

### 海洋調査を目的とした無人観測船の開発

#### 現状・背景

海に囲まれたわが国では、海洋における様々な無人船の活用方法が考えられます。例えば、西之島のような過酷環境でのモニタリング、島しょ部の監視及びいけすの管理など漁業への活用などです。また福島第1原子力発電所事故時には汚染水の問題があり、放射線モニタリングへの活用も期待できます。そのような様々な業務に対応できる無人船の開発を目指しました。

#### 研究 (実用化) 開発の目標

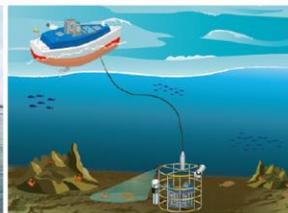
本研究の目的は、既存の無人船をベースとして要素技術の開発を行い販売用無人船の設計図の完成を目指しました。具体的には、1回の航行時間5日以上及び自動航行機能を持った無人船の開発、海底用放射線測定器及び自動土壌サンプリング装置の開発を目指しました。また、機械学習を用いた無人船の制御研究や既存の無人観測船を用いた海底地形図の作成技術の確立を行いました。

#### 研究 (実用化) 開発のポイント・先進性

無人のタンカーやボート型の無人船が商品化されているなど世界における無人船の開発は進んでいます。海に囲まれたわが国においては、前述のように現在人手で行っている仕事を無人船で置換することにより、大きなメリットが生まれると考えられます。今回の研究で最終的に完成した無人観測船は、放射線の測定だけでなく、海底土サンプルの採取や水温等の海水の基礎的な情報を取得できるマルチセンサーを搭載しています。また、開発で得られた要素技術は様々な分野に応用可能と考えています。



Windy-3S (ウインディーネットワーク所有)



開発した無人船イメージ

ロボット分野

エネルギー分野

環境・リサイクル分野

農林水産業分野

# 今後の展望

## (1) 共創について

- ・農林水産業、環境・リサイクル、航空宇宙、廃炉  
(エネルギー、医療、ロボット)
- ・ニューノーマル(リモート、非接触……)

## (2) 福島から世界へ

- ・DX(デジタル変革)推進
- ・SDGsへの取り組み

# 福島県民としての希望（ホームページ抜粋）

福島、ふくしま、Fukushima……………

世界的に有名になってしまった我がフルサト。

今、この“福島”を活性化させ、世界へ羽ばたかせようとするダイナミックな活動が推進されています。

特に、再生可能エネルギー、医療関連、ロボット・ドローン、環境、航空宇宙、農林水産そして廃炉 等の各分野で、世界をリードすべく 国家戦略としてさまざまな 研究開発や実証実験が推進されています。

具体的には、「福島再生可能エネルギー研究所」「ふくしま医療機器産業推進機構」「日本原子力研究開発機構」そして「福島ロボットテストフィールド」の各研究施設が竣工し、国の「イノベーションコースト構想」を中心に、世界をリードすべく新たな事業の展開が、この“福島”で産学官金が一体となって進んでいます。

福島コンピューターシステムも、福島の企業として福島発の新事業へ積極的に取り組んでおり、“新たな福島”を発信し続けたいと強く思っています。

ご清聴、感謝いたします。  
ありがとうございました。



web

<https://www.fcs.co.jp/>



Twitter

<https://twitter.com/TweetFCS?>



Facebook

<https://ja-jp.facebook.com/FukushimaComputerSystem/>

福島コンピューターシステム株式会社